

## 一般 国の制度や方針と菊川市の農業

渡辺 修 (みどり21)



Q 市として数少ない温室メロン農家についてどのように考えていますか。

A 繊細な管理などたゆまぬ努力によって生産されるアローマメロンは本市の名産品であり、温室メロン農家は本市にとって大切であります。

Q 国の方針に従い、電力ヒートポンプを導入した農家に対して燃油高騰補助を受けられない農家を対象とした補助は検討できますか。

A 国や県にセーフティネットワークにおける電気代の支援や省エネ効果が見込まれる機械設備等の更新、修繕コストの支援などの要望を行ってまいります。

Q 食料供給困難事態対策法において、対象となる菊川市内の農家の範囲と求められる内容は何か伺います。

A 日本の食糧供給が困難となる事態を未然に防止するため、国が必要な要請や指示ができる農林水産物生産可能業者は、本市の全ての農家が対象になると考えられます。法による対策が取られた場合、国から生産

や出荷、販売調整の要請、これら計画作成及び届出、計画変更などの指示や増産が要請されると想定しております。

Q 実際に市内農家に罰則が課される場合の具体例について伺います。

A 増産の要請等、措置に対して事業所への立入検査等を拒むなどした場合、20万以下の過料となります。

他に「インボイス制度が菊川市内の事業者に与える影響」について質問しました。



## 一般 ふるさと納税10倍増の実現を

渥美 嘉樹 (至誠の絆)



令和5年度の全国のふるさと納税の寄附額は前年度比約16%増の1兆1,175億円で、4年連続で最高額を更新しました。ふるさと納税市場はまだ成長段階にあり、住民生活の向上や移住政策の強化、産業振興の手段としてふるさと納税制度を最大限活用していくべきと考えます。

以上の観点から新たな菊川型のふるさと納税の戦略を組み立て、寄附受入額10倍増を実現すべきという立場で質問しました。

Q 市長就任以降のふるさと納税についての取組と今後の戦略を伺う。

A 大学生と共同で返礼品の開発などの取組みを実施しました。また、令和5年7月からは市内ゴルフ場2か所に自動販売機を設置し、その場で寄附が完了できる仕組みを導入。設置から本年8月末までで222件、1,390万円の寄附がありました。今後の戦略は、支援業務委託事業者と提携し、例えば菊川市産の米を使ったチャーハンなど、菊川市特産品を主原料としたオリジナル返礼品の開発に取組み、返礼品登録数を増

やしてまいります。また、全国的に肉や海産物などの商品がヒット商品となっているため、小笠食肉センターと返礼品について、調整を行ってまいります。そして、ポータルサイト内のページデザインの作り込みや、返礼品の魅力をより引き立たせるような画像への切替えなどの改修を行い、思わずクリックしたくなるような返礼品ページを作成し、寄附額の増加を目指します。

他に「地域おこし協力隊の早期受入れを」、「菊川市の学校の未来」について質問しました。

